

3. 重要な生態系

(1) 重要な生態系を有する地域の抽出

宗像市の重要な生態系を有する地域の分野別対応表を表 10-2 に、位置図を図 10-3 に、示します。

表 10-2 重要な生態系を有する地域の分野別対応表（その 1）

区分	番号	名称	関連分野の概要		
			ランク	分野	該当用件
ゾーン I	1	沖ノ島・小屋島	A	地形・地質	G1：沖ノ島の海底火碎岩
				植生	全島 自然植生（海岸風衝草原、海岸風衝低木林、照葉樹高木林）
				植物	(1) 沖ノ島
				昆虫類	沖ノ島
				鳥類	ヒメクロウミツバメ、カンムリウミスズメ、ウチヤマセンニュウ、オオミズナギドリ、カラスバト、リュウキュウコノハズク
			D	哺乳類	クマネズミ等の生息が予想される
	2	地島遠見山周辺	A	植生	東・北斜面 自然植生（海岸風衝草原、海岸風衝低木林、照葉樹高木林）
				昆虫類	地島遠見山と海岸地域
			B	植生	西斜面 代償植生（照葉樹二次林）
			B	植物	(30) 地島（祇園山・遠見山周辺）
	3	大島中央～北部	A	鳥類	カラスバト、ミサゴ、ハヤブサ 等
				地形・地質	G3：地島東海岸の海食崖
				哺乳類	ハツカネズミ等の生息が予想される
			A	植生	御嶽周辺 自然植生（照葉樹高木林）
				爬虫類・両生類	北・西海岸斜面 自然植生（海岸風衝草原、海岸風衝低木林）
			B	昆虫類	大島御嶽周辺
				地形・地質	G2：大島北西部の古第三紀層
			B	植生	御嶽周辺 代償植生（照葉樹二次林）
				植物	(6) 大島
	4	孔大寺山・弥勒山・金山・城山周辺	B	鳥類	カラスバト 等
				D	ハツカネズミ等の生息が予想される
			A	植生	孔大寺山～白山 自然植生（照葉樹高木）
			A	植物	城山 自然植生（照葉樹高木林、夏緑樹高木林）
			A	爬虫類・両生類	(32) 城山
			A	昆虫類	(5) 孔大寺・樽見川上流域
			B	鳥類	ミゾゴイ?、ヤマドリ、サンコウチョウ、サシバ 等
			B	地形・地質	G8：宗像市北東部の残丘山地群
			B	植生	弥勒山 代償植生（照葉樹二次林、夏緑樹二次林）
			B	植物	(31) 弥勒山・金山周辺
	5	さつき松原	B	哺乳類	テン・イタチ等の高次捕食者生息確認
			C	昆虫類	孔大寺山山麓
			D	水生生物	
			A	植生	砂丘 自然植生（砂丘草原、塩沼地草原）
			A	昆虫類	さつき松原
			B	植生	砂丘 植林（クロマツ植林）
			B	植物	(2) 「少年自然の家」さつき松原
			B	地形・地質	(33) 鐘崎海岸・鐘ノ岬（織幡宮）・さつき松原（上八海岸）周辺
			C	鳥類	G6：さつき松原の砂浜海岸と砂丘地形
			C	水生生物	ヨタカ?、渡り鳥の中継地 等
			D	哺乳類	ハツカネズミ等の生息が予想される

備考) ゾーン別の環境保全方針（案）

ゾーン I：自然環境価値の最も高い地域 ゾーン II：自然環境価値の高い地域

ゾーン III：自然環境価値の比較的高い地域

表 10-2 重要な生態系を有する地域の分野別対応表（その2）

区分	番号	名称	関連分野の概要		
			ランク	分野	該当用件
ゾーン I	6	釣川中流～下流周辺	A	地形・地質	G13：釣川河谷に沿った海成層の湾入
				植生	鎮国寺境内 自然植生（照葉樹高木林）
			B	植生	砂丘 植林（クロマツ植林）
			C	植物	(17) 釣川下流 (20) 鎮国寺 (24) 宗像大社・氏八幡 (19) 釣川中流（下） (18) 釣川中流（上）
				哺乳類	ノウサギ、カヤネズミ生息確認
	7	吉田・多礼貯水池周辺		鳥類	ミサゴ、タマシギ 等
			A	水生生物	
			B	鳥類	トモエガモ、オオタカ 等
			B	植生	代償植生（照葉樹二次林、夏緑樹二次林）
	8	許斐山	C	植物	(21) 吉田・多礼貯水池周辺
				哺乳類	ノウサギ、カヤネズミ生息確認
				水生生物	
			A	植生	山頂付近 自然植生（照葉樹高木林）
			A	昆虫類	許斐山
ゾーン II	9	磯辺山周辺	B	植物	(9) 許斐山山地
			B	鳥類	ヤマドリ、サシバ 等
			B	哺乳類	テン・イタチ等の高次捕食者生息確認
			C	地形・地質	G16：許斐山
			A	爬虫類・両生類	
			B	植物	(15) 大穂の谷、馬頭観音とその上流域
			B	鳥類	オオタカ？ 等
			C	地形・地質	G19：磯辺山西方の結晶片岩
			C	植物	(12) 磯辺山
			C	哺乳類	ノウサギ、カヤネズミ生息確認
	10	名残	C	鳥類	キビタキ、キジ 等
			A	植生	田代集落後背丘陵 自然植生（照葉樹高木）
			A	植物	(14) 名残の谷地田
			B	植生	田代集落付近 代償植生（照葉樹二次林）
			B	植物	(3) 黙想の家-教会の森
ゾーン III	11	八所宮	B	鳥類	ミゾゴイ？、オオタカ 等
			B	爬虫類・両生類	
			C	昆虫類	名残の谷地田
	12	鐘崎海岸	A	植生	自然植生（照葉樹高木林）
			A	植物	(11) 八所宮
	12	鐘崎海岸	C	爬虫類・両生類	
			C	鳥類	アオバズク 等
			A	植生	鐘ノ岬 自然植生（海岸風衝草原、海岸風衝低木林、照葉樹高木林）
			B	植生	深浦浜 植林（クロマツ植林）
			B	植物	(33) 鐘崎海岸・鐘ノ岬（織幡宮）・さつき松原（上八海岸）周辺
			D	哺乳類	ハツカネズミ等の生息が予想される

備考) ゾーン別の環境保全方針（案）

ゾーン I：自然環境価値の最も高い地域 ゾーン II：自然環境価値の高い地域

ゾーン III：自然環境価値の比較的高い地域

表 10-2 重要な生態系を有する地域の分野別対応表（その3）

区分	番号	名称	関連分野の概要		
			ランク	分野	該当用件
ゾーンII	13 大島		A	植生	中津宮境内 自然植生（照葉樹高木林）
			B	植生	海岸線 自然植生（海岸風衝草原、海岸風衝低木林） 島内丘陵 代償植生（照葉樹二次林）
				地形・地質	G2：大島北西部の古第三紀層
				植物	(6) 大島
				鳥類	
	14 北東部山地		B	地形・地質	G8：宗像市北東部の残丘山地群
				植生	湯川山・孔大寺山・白山・金山・城山 代償植生（照葉樹二次林、夏緑樹二次林）
				植物	(22) 湯川山 (5) 孔大寺・樽見川上流域樽見川上流域 (10) 白山 (32) 弥勒山・金山周辺
				哺乳類	テン・イタチ等の高次捕食者生息確認
				鳥類	カラスバト 等
	15 北東部海岸線		B	鳥類	
				昆虫類	樽見川上流（里山） 孔大寺山
			D	水生生物	
			B	植物	(33) 鐘崎海岸・鐘ノ岬（織幡宮）・さつき松原（上八海岸）周辺 (2) 「少年自然の家」さつき松原
			C	地形・地質	G6：さつき松原の砂浜海岸と砂丘地形
	16 草崎半島・勝島			鳥類	カラスバト 等
				D	哺乳類 ハツカネズミ等の生息が予想される
			A	植生	自然植生（海岸風衝草原、海岸風衝低木林、照葉樹高木林）
			B	哺乳類	テン・イタチ等の高次捕食者生息確認
				昆虫類	草崎半島
	17 吉田・多礼貯水池		C	地形・地質	G5：草崎半島の白亜紀の火山岩類
				植物	
			B	植生	代償植生（照葉樹二次林、夏緑樹二次林）
				植物	(21) 吉田・多礼貯水池周辺
			C	鳥類	キビタキ、キジ 等
	18 玄海ニュータウンから原			水生生物	
			B	地形・地質	G9：玄海ニュータウンから原にかけての高位段丘
				D	水生生物
			B	植生	代償植生（照葉樹二次林）
				鳥類	サンコウチョウ、キビタキ、キジ 等
	19 宗像大社西		B	植物	
				地形・地質	G15：用山の構造谷と西山断層露頭
			B	植生	代償植生（照葉樹二次林）
				植物	(23) 大井貯水池周辺
				鳥類	サンコウチョウ、サシバ、キビタキ 等
	20 大井貯水池及び後背			爬虫類・両生類	
			B	地形・地質	
				C	
				地形・地質	
				C	
	21 光岡八幡宮		B	植物	(27) 光岡八幡宮
			C	地形・地質	G17：王丸の高位段丘
				鳥類	アオバズク

備考) ゾーン別の環境保全方針（案）

ゾーンI：自然環境価値の最も高い地域 ゾーンII：自然環境価値の高い地域

ゾーンIII：自然環境価値の比較的高い地域

表 10-2 重要な生態系を有する地域の分野別対応表（その4）

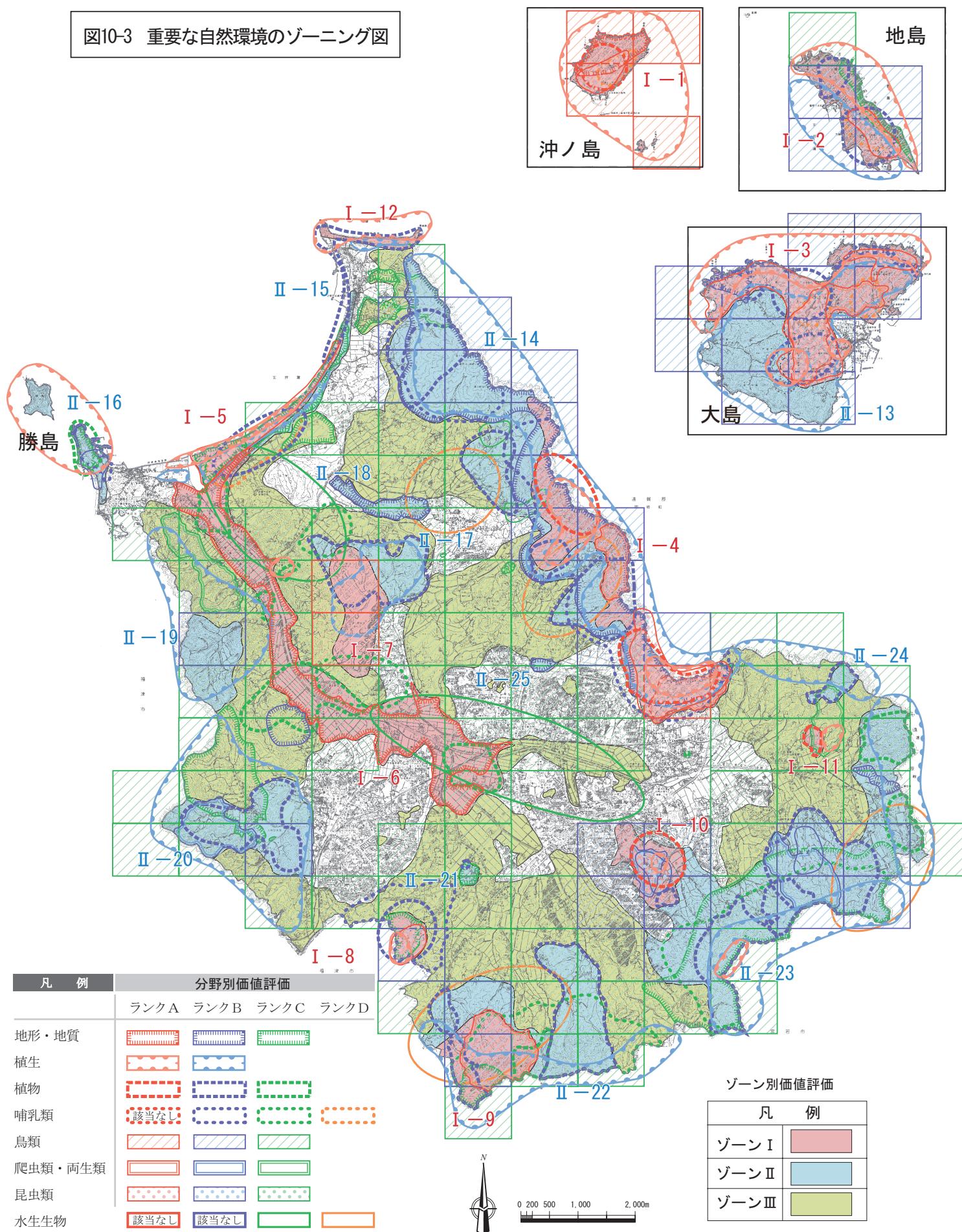
区分	番号	名称	関連分野の概要		
			ランク	分野	該当用件
ゾーンII	22	磯辺山・野坂周辺	B	植生	代償植生（照葉樹二次林）
				植物	(15) 大穂の谷、馬頭観音とその上流域
					(16) 野坂地区・藤倉川流域
			C	鳥類	オオタカ 等
				植物	(12) 磯辺山
	23	名残山・新立山・武丸・高六	B	哺乳類	ノウサギ、カヤネズミ生息確認
				鳥類	キビタキ、キジ 等
				水生生物	
			A	植生	名残山主稜線沿い 自然植生（照葉樹高木）
				植物	代償植生（照葉樹二次林）
ゾーンII	24	戸田山	B	地形・地質	G20: 新堅山周辺の釣川水源地域 G18: 高六の花崗岩類と古第三紀総の不整合 露頭と正断層
				植物	(13) 名残山周辺
					(8) 大平山
			C	鳥類	(25) 新立山・武丸周辺台地・平山天満宮 オオタカ、サンコウチョウ 等
				爬虫類・両生類	
			D	昆虫類	
				鳥類	キビタキ、サシバ、キジ 等
				哺乳類	ノウサギ、カヤネズミ生息確認
				水生生物	
	25	くりえいと北方	B	地形・地質	G14: くりえいと北方の石炭層を挟む古第三

備考) ゾーン別の環境保全方針（案）

ゾーンI：自然環境価値の最も高い地域 ゾーンII：自然環境価値の高い地域

ゾーンIII：自然環境価値の比較的高い地域

図10-3 重要な自然環境のゾーニング図



（2）宗像市の重要な生態系

① 生態系の概要

〔生態系構成要素〕

生態系は生物・非生物で構成され、生物間及び生物・非生物間での作用・反作用・相互作用により平衡状態が維持されている物質・エネルギーの循環系である。生物部分は捕食・被食等の競争関係から生産者、消費者、分解者に区分され、非生物部分は生物活動を支える光、熱、養分、水、地形・地質等で構成される。

生産者は藻類、コケ類、シダ類、種子植物類を含む緑色植物で、光合成産物（デンプン等の有機物）のうち、大部分は個体維持（呼吸消費）と再生産（純生産）に分配されるが、生体の一部は植食動物に、落葉落枝は土壤動物に食される。生産者は植物集団の外観（相観）により、樹林（照葉樹林、夏緑樹林、竹林、針葉樹林、果樹園）、草原（砂丘や海岸崖の草原、路傍・空き地・畑地・放棄耕作地等の乾性草原及び河川・溜池・水田等の湿性草原）、植物の少ない開放景観域（住宅地・市街地・裸地）等に区分され、それに応じた動物集団（消費者）の活動域になっている。植物には年間を通じて生活可能な常緑植物、夏季のみの落葉樹や一年草があるので、生産者の構成種には季節的変動が生じる。

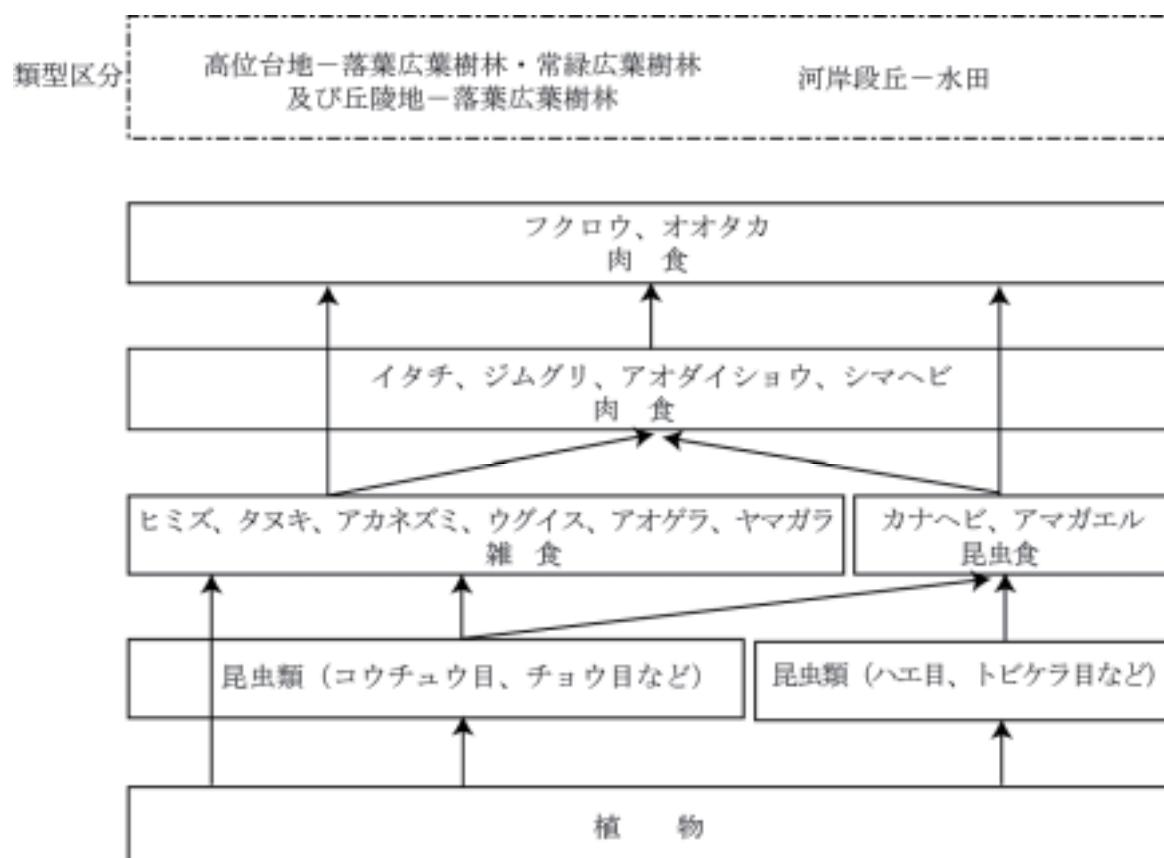
消費者は生産者が作った有機物を食べる動物で、生息環境により地上性動物、土壤動物、水生動物に、食物により食植動物、食肉動物、雑食動物に区別される。食植動物は低次消費者、食肉動物及び雑食動物は高次消費者と呼ばれる。食用部分は植物の生葉、果実、種子、落葉落枝等、動物の生体、死体、糞等である。1年中活動する動物のほか、渡り鳥や冬眠する動物もいるので、消費者構成種にも季節的変動がある。

分解者は有機物を無機物に分解する生物で、菌類（キノコ、カビ）や細菌類が該当する。その生育環境は動植物の体内、体表、土壤中、水中で、生物の遺体や老廃物を直接分解する場合や、土壤動物等による破碎物を分解することもある。分解者によって作られた無機物は、生産者によって再び有機物となる。

なお、生態系構成員をヒト中心で見ると、ヒト、家畜、作物等に害を与える生産者、消費者、分解者は有害雑草、病害虫、有害鳥獣等と呼ばれる。

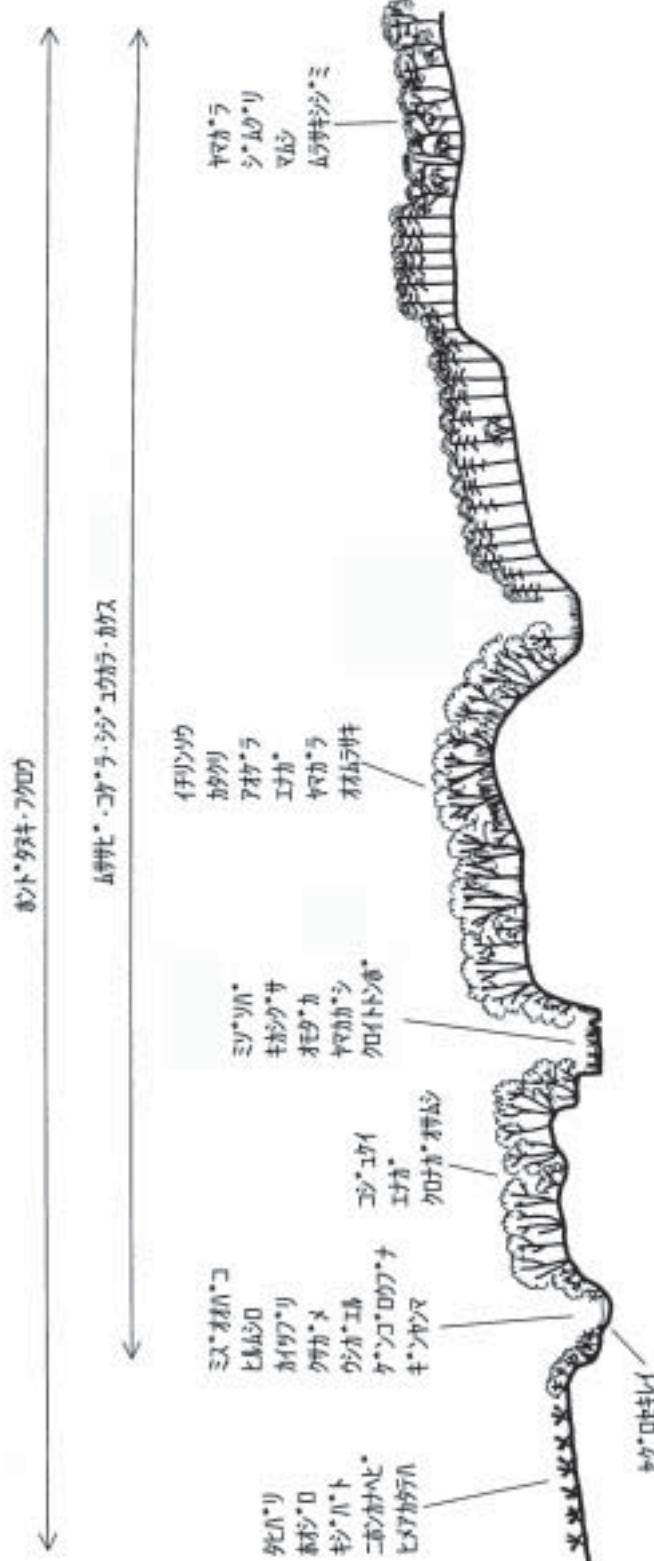
〔生態系の構造〕

生態系の構造の1例を挙げると下図のようになる。



※本図は主要な植物連鎖について既存資料を主に作成した。

図 10-4 生態系の構造（例 1）



植物	地盤	水田	落葉広葉樹林	水田	落葉広葉樹林	水田	スギヒノキ林	常緑広葉樹林
土壤	褐色森林土壤	灰色低地土壤	褐色森林土壤	グライ	褐色土壤	グライ	褐色森林土壤	褐色土壤
地形	丘陵地	低位台地	丘陵地	低位台地	高位台地	低位台地	丘陵地	高位台地
表層地質	下緑層群	井陣層	下緑層群	冲積層	口一ム層	冲積層	下緑層群	口一ム層
類型区分	丘陵地・高位台地	河岸段丘 一水田	丘陵地一落葉 広葉樹林	河岸段丘 一水田	高位台地一 スギヒノキ林	丘陵地一 スギヒノキ林	高位台地一 スギヒノキ林	常緑広葉樹林

図 10-5 生態系の構造（例 2）

② 宗像市の重要な生態系の概要

〔消費者の生息空間〕

物質・エネルギー循環系である生態系は、規模の点から大は地球生態系、陸上生態系、海洋生態系から、小は孤島生態系まである。渡り鳥や回遊魚もいるので、物質循環の観点から、これが宗像市の生態系と定義するには困難であるが、宗像市は海と山に囲まれた盆地内に位置し海洋島を含むことで、緩やかではあるが一種の閉鎖系（生態系）とみなすことができる。そこには地形的には山地、丘陵、平地、砂丘、水域（河川・海等）があり、土地利用（植生の種類）の点では樹林地、草地、水田・畑・果樹園等の耕作地、市街地・住宅地等の景観域がある。

消費者である動物群は、これら地形や景観域を生息空間（ハビタット）として利用している。下表に示すように、動物群の中には行動範囲が比較的狭いもの、すなわち、同一生息空間内で繁殖・休息・採餌活動をするものもあれば、行動範囲が比較的広い動物群、すなわち、複数の生息空間を必要としているものもいる。この点から、植生の多様性が動物群集の多様性につながると考えられる。

表 10-3 動物群の生息空間（ハビタット）

動物群	繁殖地・休息地	採餌場所
タヌキ、イノシシ	樹林、草原	樹林、草原、耕作地、人家付近
オオミズナギドリ、海ガモ	海洋島の樹林や草原	海洋
サギ類、陸ガモ	樹林、水辺等	河川、溜池、水田
タカ類、フクロウ、カラス、トンビ	樹林	樹林、海岸、耕作地、住宅地等
ツバメ、スズメ	人家付近	耕作地や人家付近
マムシ	樹林、草原	同左
ヤマアカガエル、カスミサンショウウオ	樹林とその近傍の水溜り	樹林
魚類	淡水域、海水域	同左
モンシロチョウ	アブラナ科野菜畑	同左
アゲハチョウ	柑橘類果樹園	

〔生息空間の分布状況〕

上述のように、植生（景観構成要素）の多様性が動物群集の多様性につながると考えられることから、消費者から見た生息空間の分布状況を地区（表 10-4、図 10-6）別に比較したところ、表 10-5 のようになった。

この地区割りは宗像市の人為的な行政区画であるが、自然発生的に形成されたかつての村や町（現在の小字、字、大字に相当）の集合体であり、共同体意識のもとで生活が営まれ、土地利用がなされてきた経緯がある。しかし、自然的区画ではないため、広狭差や植生成立立地の有無等の点で適切さを欠く面もあるが、比較の便宜上、これを使用した。

また、生息空間を区分するための指標として、生産者である植生の種類（海岸景観構成要素1・2、里地里山景観構成要素1・2・3）を使った。このうち、海岸景観構成要素1・2及び里地里山景観構成要素1は自然植生またはこれに次ぐ植生であり、里地里山景観構成要素2・3は主として人為的影響下で生じる植生である。

表 10-4 町丁・字別面積

(平成17年1月末現在、単位：ha・%)

町丁・字	面積	千分比	町丁・字	面積	千分比	町丁・字	面積	千分比
総 数	11,654.1	1,000.0	自由ヶ丘1丁目	9.1	0.8	東郷1丁目	12.2	1.0
吉武地区	1,215.3	104.3	自由ヶ丘2丁目	14.4	1.2	東郷2丁目	5.2	0.4
吉留	809.4	69.5	自由ヶ丘3丁目	20.3	1.7	東郷3丁目	4.9	0.4
武丸	405.9	34.8	自由ヶ丘4丁目	13.9	1.2	東郷4丁目	6.8	0.6
赤間地区	1,117.2	95.9	自由ヶ丘5丁目	14.0	1.2	東郷5丁目	12.4	1.1
赤間(住居表示外)	2.1	0.2	自由ヶ丘6丁目	13.6	1.2	東郷6丁目	14.9	1.3
赤間1丁目	10.7	0.9	自由ヶ丘7丁目	18.6	1.6	田熊(住居表示外)	87.0	7.5
赤間2丁目	3.6	0.3	自由ヶ丘8丁目	12.6	1.1	田熊1丁目	5.2	0.4
赤間3丁目	8.0	0.7	自由ヶ丘9丁目	8.6	0.7	田熊2丁目	11.3	1.0
赤間4丁目	6.8	0.6	自由ヶ丘10丁目	13.9	1.2	田熊3丁目	9.8	0.8
赤間5丁目	6.9	0.6	自由ヶ丘11丁目	16.2	1.4	田熊4丁目	11.1	1.0
赤間6丁目	5.2	0.4	自由ヶ丘 西町	7.5	0.6	田熊5丁目	14.7	1.3
赤間文教町	40.0	3.4	自由ヶ丘南1丁目	12.6	1.1	田熊6丁目	8.9	0.8
石丸(住居表示外)	34.7	3.0	自由ヶ丘南2丁目	7.3	0.6	大井	337.5	29.0
石丸1丁目	8.2	0.7	自由ヶ丘南3丁目	14.7	1.3	用山	261.2	22.4
石丸2丁目	13.4	1.1	自由ヶ丘南4丁目	17.2	1.5	村山田	140.0	12.0
石丸3丁目	9.6	0.8	青葉台1丁目	15.5	1.3	大井台	13.1	1.1
石丸4丁目	21.6	1.9	青葉台2丁目	16.4	1.4	和歌美台	9.3	0.8
雷地原	265.3	22.8	河東地区	907.7	77.9	平井1丁目	12.4	1.1
名残	227.1	19.5	城西ヶ丘1丁目	6.3	0.5	平井2丁目	9.1	0.8
徳重(住居表示外)	76.0	6.5	城西ヶ丘2丁目	7.3	0.6	平井3丁目	7.5	0.6
徳重1丁目	15.8	1.4	城西ヶ丘3丁目	10.2	0.9	三倉	12.2	1.0
徳重2丁目	9.8	0.8	城西ヶ丘4丁目	12.8	1.1	日の里地区	218.0	18.7
田久(住居表示外)	22.2	1.9	城西ヶ丘5丁目	5.2	0.4	日の里1丁目	22.3	1.9
田久1丁目	27.0	2.3	城西ヶ丘6丁目	9.6	0.8	日の里2丁目	18.7	1.6
田久2丁目	14.0	1.2	天平台	13.9	1.2	日の里3丁目	15.0	1.3
田久3丁目	14.2	1.2	くりえいと1丁目	9.5	0.8	日の里4丁目	24.9	2.1
田久4丁目	9.2	0.8	くりえいと2丁目	8.7	0.7	日の里5丁目	28.3	2.4
田久5丁目	14.8	1.3	平等寺	136.6	11.7	日の里6丁目	20.9	1.8
田久6丁目	10.0	0.9	山田	437.1	37.5	日の里7丁目	27.4	2.4
栄町	7.1	0.6	須恵	76.7	6.6	日の里8丁目	26.5	2.3
陵厳寺(住居表示外)	53.4	4.6	稻元	173.8	14.9	日の里9丁目	34.0	2.9
陵厳寺1丁目	11.6	1.0	河東西地区	547.1	46.9	田島地区	1,126.4	96.7
陵厳寺2丁目	13.8	1.2	ひかりヶ丘1丁目	3.6	0.3	多礼	225.0	19.3
陵厳寺3丁目	14.2	1.2	ひかりヶ丘2丁目	8.0	0.7	田島	410.0	35.2
陵厳寺4丁目	9.0	0.8	ひかりヶ丘3丁目	6.2	0.5	深田	138.2	11.9
桜美台	14.7	1.3	ひかりヶ丘4丁目	7.8	0.7	牟田尻	140.6	12.1
緑町	6.4	0.5	ひかりヶ丘5丁目	7.3	0.6	吉田	212.6	18.2
葉山1丁目	15.3	1.3	ひかりヶ丘6丁目	6.3	0.5	神楽地区	443.6	38.1
葉山2丁目	13.7	1.2	ひかりヶ丘7丁目	5.3	0.5	神楽	158.3	13.6
桜1丁目	5.0	0.4	樟陽台1丁目	13.4	1.1	江口	285.3	24.5
桜2丁目	0.0	0.0	樟陽台2丁目	7.2	0.6	池野地区	1,117.5	95.9
広陵台1丁目	10.6	0.9	河東	297.5	25.5	池田	671.9	57.7
広陵台2丁目	7.5	0.6	池浦	184.5	15.8	公園通り1丁目	422.6	36.3
広陵台3丁目	7.2	0.6	南郷地区	1,918.9	164.7	公園通り2丁目	6.1	0.5
広陵台4丁目	6.8	0.6	朝町	455.1	39.1	公園通り3丁目	7.9	0.7
広陵台5丁目	8.3	0.7	野坂	639.8	54.9	大島地区	9.0	0.8
アステイ1丁目	17.4	1.5	大穂町	33.9	2.9	大島	446.7	38.3
アステイ2丁目	19.0	1.6	大穂	252.1	21.6	上八	354.6	30.4
赤間西地区	282.8	24.3	王丸	168.6	14.5	姫地区	92.1	7.9
土穴	60.0	5.1	光岡	142.8	12.3	姫崎	154.9	13.3
三郎丸	177.3	15.2	原町	25.3	2.2	地島	154.9	13.3
大谷	21.1	1.8	曲	180.6	15.5	大島	759.1	65.1
泉ヶ丘1丁目	12.2	1.0	朝野	20.7	1.8		759.1	65.1
泉ヶ丘2丁目	12.2	1.0	東郷地区	1,146.5	98.4			
自由ヶ丘地区	252.4	21.7	久原	86.1	7.4			
自由ヶ丘	6.0	0.5	東郷(住居表示外)	53.7	4.6			

資料：総務部税務課

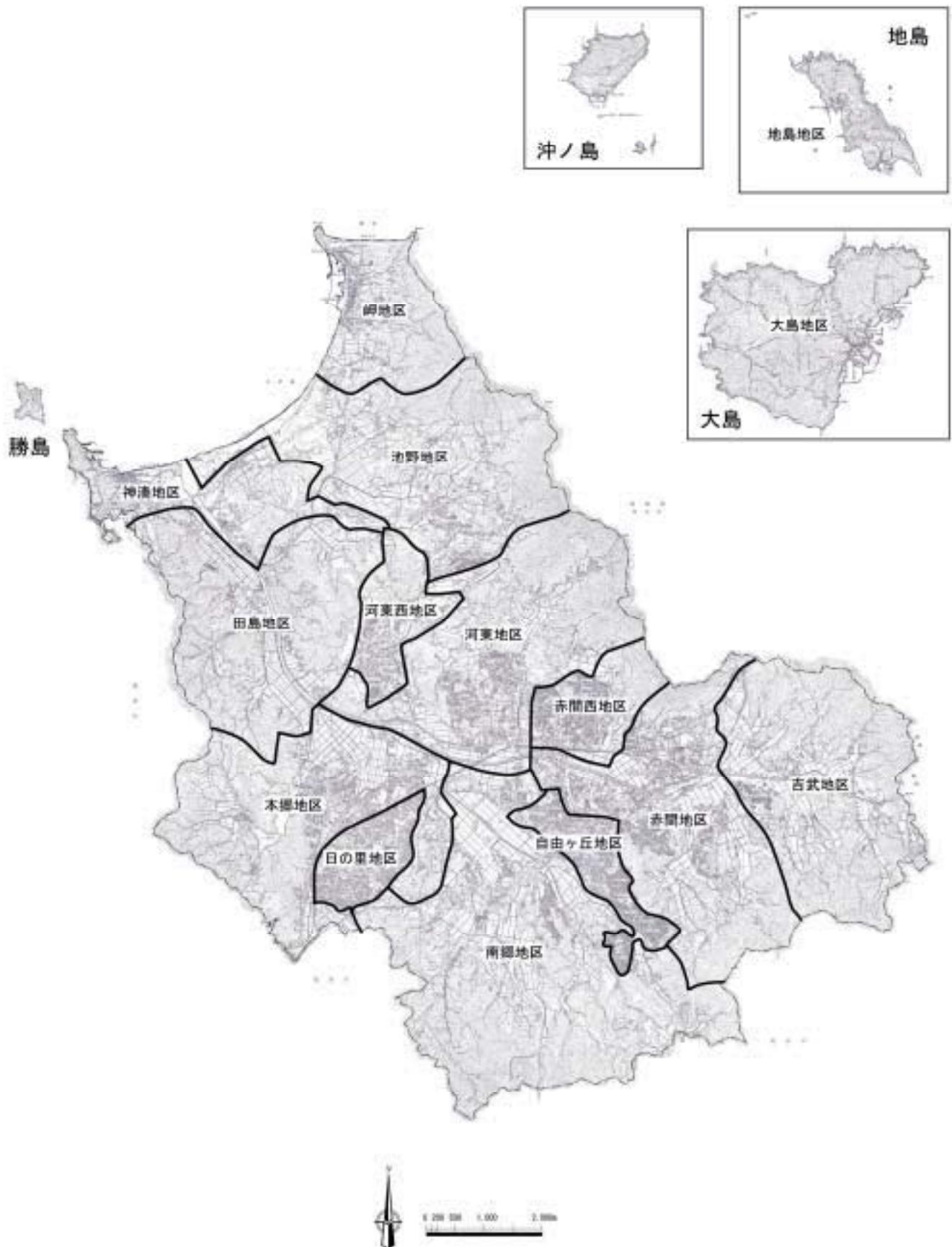


表 10-5 宗像市内各地の景観構成要素による比較

- I 海岸景観を含む地区
 IA 景観構成要素①が優占する地区
 IB 景観構成要素①+④+⑤の地区
 IC 景観構成要素①+②+④+⑤の地区
 ID 景観構成要素①+②+③+④+⑤の地区
- II 海岸景観を含まない地区
 IA 景観構成要素③+④+⑤の地区
 IB 景観構成要素④+⑤の地区
 IC 景観構成要素⑤のみの地区

群落番号	植生自然度	地区名	I				II							
			IA	IB	IC	ID	IIA	IB	IIB	IIC				
			沖ノ島	地島	大島	神岬	池野	赤間	赤間	南田	吉島	河東		
			ノ島	島	島	湊	野	西	西	郷島	武	東郷		
												自由の里		
												ヶ丘		
		面積比(%)	-	13.3	83.1	39.4	39.3	96.9	96.9	24.3	194.7	98.7	104.3	
												77.9	48.9	98.4
												21.7	18.7	
		① 海岸景観構成要素1												
1・2	10	海岸風衝草原	◎	◎	◎	○	○	・	・	・	・	・	・	
2・1	9	トペラーマサキ群集	◎	◎	◎	◎	◎	・	・	・	・	・	・	
2・2	9	オニヤブソテツーハマビワ群集	◎	◎	◎	◎	◎	・	・	・	・	・	・	
2・3	9	ムサシアブミータブ群集	●	◎	◎	◎	◎	・	・	○	・	・	・	
3・2	8	マテバシイ萌芽林	・	○	○	・	◎	◎	・	・	・	○	・	
7・3	1	自然裸地	◎	◎	◎	◎	◎	・	・	・	・	・	・	
		② 海岸景観構成要素2												
4・1	6	海岸クロマツ林	・	・	・	●	●	●	・	・	・	・	・	
1・1	10	海岸砂丘草原	・	・	・	◎	○	●	・	・	・	・	・	
1・3	10	塩沼地草原	・	・	・	・	○	・	・	・	・	・	・	
		③ 里地里山景観構成要素1												
2・4	9	ミミズバイースダジイ群集	・	・	・	・	○	○	○	○	○	・	・	
2・5	9	ヤブコウジースダジイ群集	・	・	・	・	○	○	○	○	○	・	・	
2・8	9	エノキ・ムクノキ林	・	・	・	・	○	○	○	・	・	・	・	
2・6	9	イスノキ・ウラジロガシ群集	・	・	・	・	○	・	・	・	・	・	・	
2・7	9	ムクロジ林	・	・	・	・	○	・	・	・	・	・	・	
		④ 里地里山景観構成要素2												
3・3	8	コナラ林	・	○	○	・	○	○	○	○	○	○	・	
4・3	6	竹林	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	・	
1・4	10	河川水生植物群落	・	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・	
5・3	4	放棄水田雑草群落	・	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・	
5・4	4	放棄畑雜草群落	・	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・	
6・1	3	果樹園	・	○	○	○	○	◎	○	○	◎	○	◎	
6・2	2	水田雑草群落	・	○	○	●	●	●	●	●	●	●	・	
7・1	2	緑の多い住宅地	・	○	○	○	○	○	○	○	○	○	・	
5・2	4	ゴルフ場	・	・	◎	・	・	・	・	◎	◎	・	・	
5・5	5	牧草地	・	・	◎	・	・	・	・	・	・	・	・	
3・4	8	アオモジ林	・	・	・	・	○	・	・	・	・	・	・	
		⑤ 里地里山景観構成要素3												
5・2	4	踏み跡群落	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
7・3	1	人工裸地	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
3・1	8	シイ・カシ萌芽林	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○	
4・2	6	スギ・ヒノキ植林	・	○	○	●	●	●	●	●	●	●	・	
1・5	10	溜池水生植物群落	・	○	○	○	○	○	○	○	●	○	・	
5・1	5	路傍雑草群落	・	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
6・3	2	畑雜草群落	・	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
7・2	1	市街地・住宅地	・	○	○	◎	◎	●	●	●	●	●	●	

表中の記号 ●:分布面積大 ◎:同中 ○:同小

景観構成要素の説明

- 海岸景観構成要素1：海岸崖や海岸山地に生じる自然植生や自然裸地
- 海岸景観構成要素2：海岸砂丘に生じる自然植生・自然裸地や砂丘植林
- 里地里山景観構成要素1：里地里山に残存する自然林
- 里地里山景観構成要素2：里地里山の二次植生で、大型住宅団地には生じない植生
- 里地里山景観構成要素3：里地里山の二次植生であるが、大型住宅団地にも生じる植生

〔生息空間の多様性から見た地区別評価〕

各景観構成要素の組み合わせで各地区の特徴を比較した表 10-5 によれば、宗像市は海との関わりの深い I 地区（海岸景観構成要素 1・2 を含む、主として旧玄海町及び旧大島村）と、そうでない II 地区（海岸景観構成要素 1・2 を含まない、主として旧宗像市）に大別され、I 地区は IA～ID の 4 地区に、II 地区は II A～II C の 3 地区に細分される。I 地区は主として陸生・海陸両生動物の、II 地区は主として陸生動物の生息空間とみなされる。

このうち、IA 地区（沖ノ島）と II C 地区（日の里・自由ヶ丘）は、他地区に比べて植生の種類数が少ない。これは、沖ノ島については面積と生物相は比例する（種数一面積曲線）及び海洋島の生物相は大陸からの距離に応じて減少するという生態学的現象によるものであり、日の里・自由ヶ丘地区は住宅が卓越し植生の種類数が少ないとみなされる。

また、残りの地区のうち、II B 地区はほとんど里地里山景観構成要素 2・3（山林・田園・住宅街景観）のみの地区、IB～ID 及び II A 地区は里地里山景観構成要素 2・3 を含むが、海岸性または山地性の自然植生が残存する地区である。

植生の多様性が動物群の生息空間の多様性につながるとすれば、宗像市内各地区の部分生態系としての価値付けは（IB、IC、ID）=II A>II B>（IA、II C）となる。ただし、上述のように大型住宅団地が比較的限られた動物群の生息空間とならざるを得ないという観点から、これを含む II A 地区を細分すると、上の不等式は（IB、IC、ID）=II A（田島・吉武） \geq II A（赤間・赤間西・南郷）>II B>（IA、II C）と改変される。

上の式により動物群の生息空間としての宗像市内各地区の重み付けはできたが、このままでは保全すべき部分生態系選定についての具体性が乏しいので、何らかの観点で各地区内を細分する必要がある。観点の例として、生態系の土台である植生の現存量や植生の階層構造、植生自然度があげられる。

現存量とは、ある景観域における植物体の全重量を指し、森林>草原>開放景観域の順に小さくなる。森林には自然林、二次林、植林が、草原には海岸崖や砂丘、河辺の自然草原や水田等の耕作地、路傍雑草群落、牧場が、開放景観域には自然裸地や人工裸地、市街地住宅地が該当する。なお、宗像における草原景観の大部分は水田である。

階層構造とは、光合成を担う枝葉の集合体の垂直分布を言い、高木層、亜高木層、低木層、草本層等に区分される。照葉樹林帯の森林植生は一般に高木層から草本層までの 4 層及び腐植層が分化しているのに対し、草原植生では低木層や草本層の 2 層または単

層構造である。森林の場合、林冠、林床、林縁、腐植層を生活空間としている種々の消費者集団がおり、草原植生よりも多様な生息空間を形成している。

植生自然度とは植生に対する人為的影響の程度や階層構造の発達程度に応じて 10 段階区分されたものである。

上記の現存量、階層構造、自然度を考慮して各地区内の生息空間を重み付けると、自然林を含む森林地帯 > 自然林を含まない森林地帯 > 自然草原を含む草原地帯 > 自然草原を含まない草原地帯（主として水田地帯）> 市街地・住宅街の順となり、同時に宗像市の保全すべき部分生態系の順となる。なお、植生の分布状態は植生図 P3-13（植生分野報告参照）に示すとおりである。